

# 漁海況年報

平成25年1月1日～12月31日

静岡県水産技術研究所  
(電話 054-627-1815)

静岡県水産技術研究所伊豆分場  
(電話 0558-22-0835)

## 【黒潮流路】

図1に黒潮流型の区分を、表1に近年の流型の経過を示した。また、図2には平成24年1～12月の各月前半、後半の代表的な黒潮流路を示した。

平成25年の黒潮流路は、1～3月は、熊野灘～伊豆諸島付近を小蛇行が頻繁に東進し、流型はC型からD型、N型へ変化した。この間、一時的に伊豆諸島付近では接岸傾向が強まり、駿河湾内に暖水が波及した。4月前半に潮岬を通過した小蛇行は、北上部が陸に接近しながら熊野灘～遠州灘沖を東進した。5月前半には黒潮の北縁は神津島付近に位置し、駿河湾、相模湾に暖水が波及した。流型は4月後半にB型となり5月後半以降はC型で推移した。7月前半に潮岬を通過した小蛇行は、再び北上部が陸に接岸しながら熊野灘～遠州灘を東進し、8月前半に伊豆諸島付近に達した。この間7月後半にはW型、8月後半にB型となり、9月前半にC型となった。その後、12月後半まではC型で推移した。

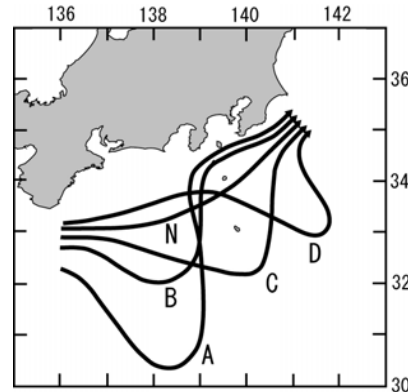


図1 黒潮流型の区分  
(海上保安庁海洋情報部より)

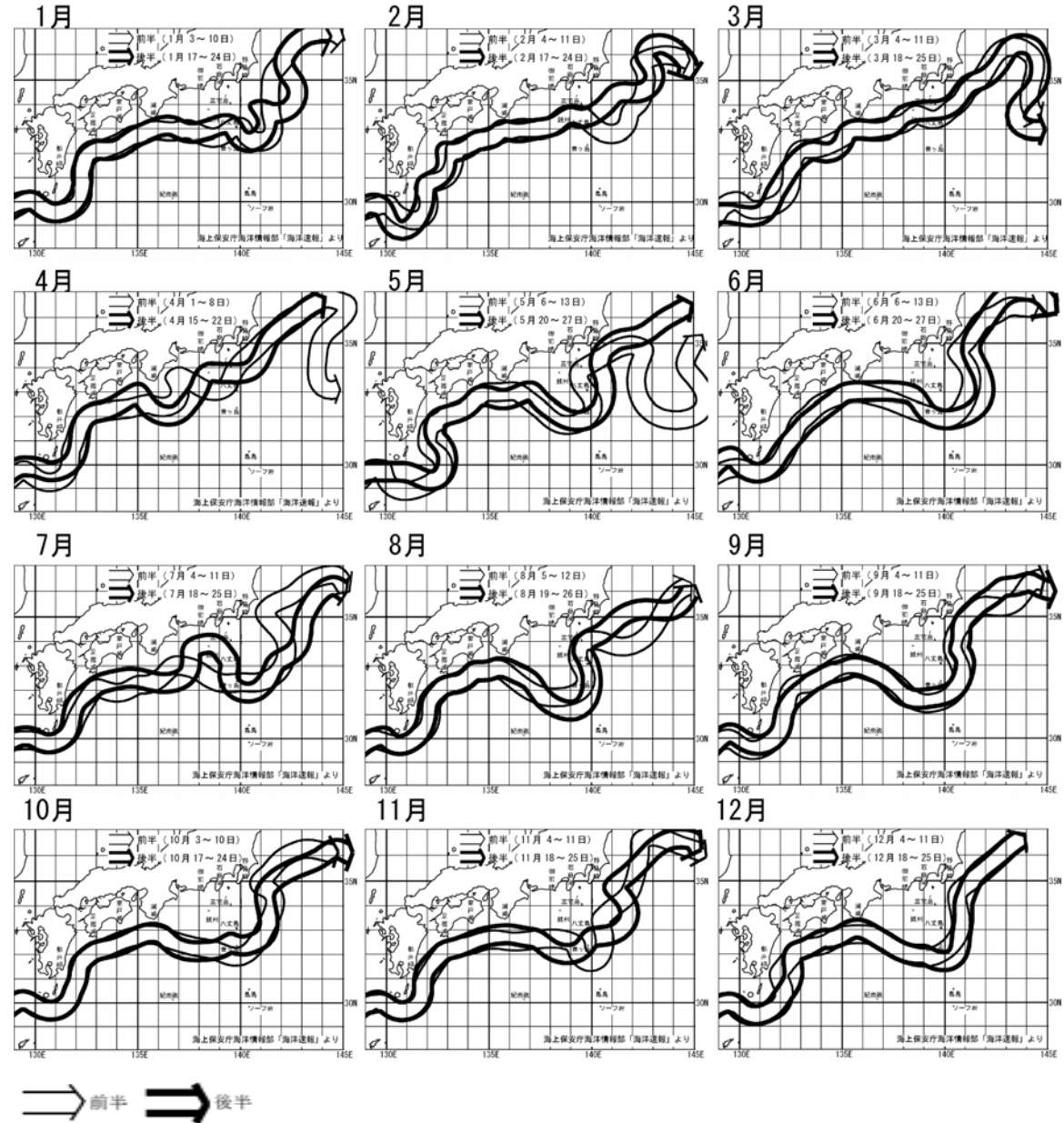


図2 黒潮流軸の変動(海上保安庁海洋情報部「海洋速報」より)

表1 黒潮流型一覧表 資料:海洋速報(海上保安庁)、関東・東海海況速報)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
平成元年	B	C	C	C	DW	C	N	N	N	N	N	DN	B	A	A	A
2年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	AC	C	C	C	CD	
3年	C	C	C	C	C	C	C	CD	C	C	C	C	C	C	C	N
4年	C	DC	N	N	N	N	BD	C	DN	N	N	N	D	N	NC	C
5年	N	N	N	N	N	B	B	BC	C	C	C	C	C	C	N	B
6年	B	C	D	N	N	N	C	C	NN	N	N	N	N	N	N	N
7年	NN	N	N	N	N	B	B	B	C	C	C	D	D	NN	N	N
8年	C	D	D	D	W	D	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N
9年	N	D	D	D	C	C	C	CW	D	ND	N	D	C	CNC	D	W
10年	D	C	N	N	D	N	NW	N	N	N	NB	B	B	C	C	C
11年	CW	W	WB	C	C	C	C	C	N	N	N	N	N	N	N	N
12年	C	C	CW	W	W	WB	B	BC	CW	WB	C	C	C	C	C	C
13年	C	C	C	C	CD	C	C	C	WN	B	C	C	C	C	WB	BC
14年	N	N	N	N	N	N	N	NB	N	N	N	N	N	N	N	N
15年	N	N	N	N	N	D	NW	WN	B	BC	D	N	N	N	N	N
16年	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	NA	A	A	A	A
17年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	C	C	C	C	C	C
18年	N	N	N	NB	C	CWC	CN	N	N	N	N	N	N	N	BN	C
19年	N	BC	D	B	B	C	C	C	C	C	C	N	B	C	C	C
20年	C	C	N	N	N	N	B	B	C	C	C	CD	C	C	C	C
21年	C	C	C	C	C	C	CW	WB	C	C	C	C	C	CW	WC	C
22年	D	DN	N	BC	N	NW	WB	C	CD	D	N	N	NB	B	BN	N
23年	N	N	N	B	B	CW	C	DW	N	BC	C	DN	N	NB	BN	N
24年	N	N	N	B	C	C	CD	N	B	C	C	DN	N	N	N	N
25年	CW	ND	D	DN	N	N	NB	B	BC	C	C	C	W	W	B	C

\*静岡県水産技術研究所一部改変

[ 県下沿岸域 ]

図3に平成25年1~12月の旬別の沿岸水温の変化を示した。1月上旬は「やや低め」~「かなり低め」となり、その後2月上旬までは、「平年並」~「低め」で経過した。2月中旬から6月中旬は、高め基調で推移し、このうち4月上旬には暖水波及により「高め」~「かなり高め」となった。6月下旬~7月上旬は概ね「平年並」となったが、その後7月中旬~11月上旬には再び高め基調で推移した。11月中旬~12月下旬は「平年並」~「低め」となったが、相模湾側では12月下旬に「平年並」~「高め」となった。

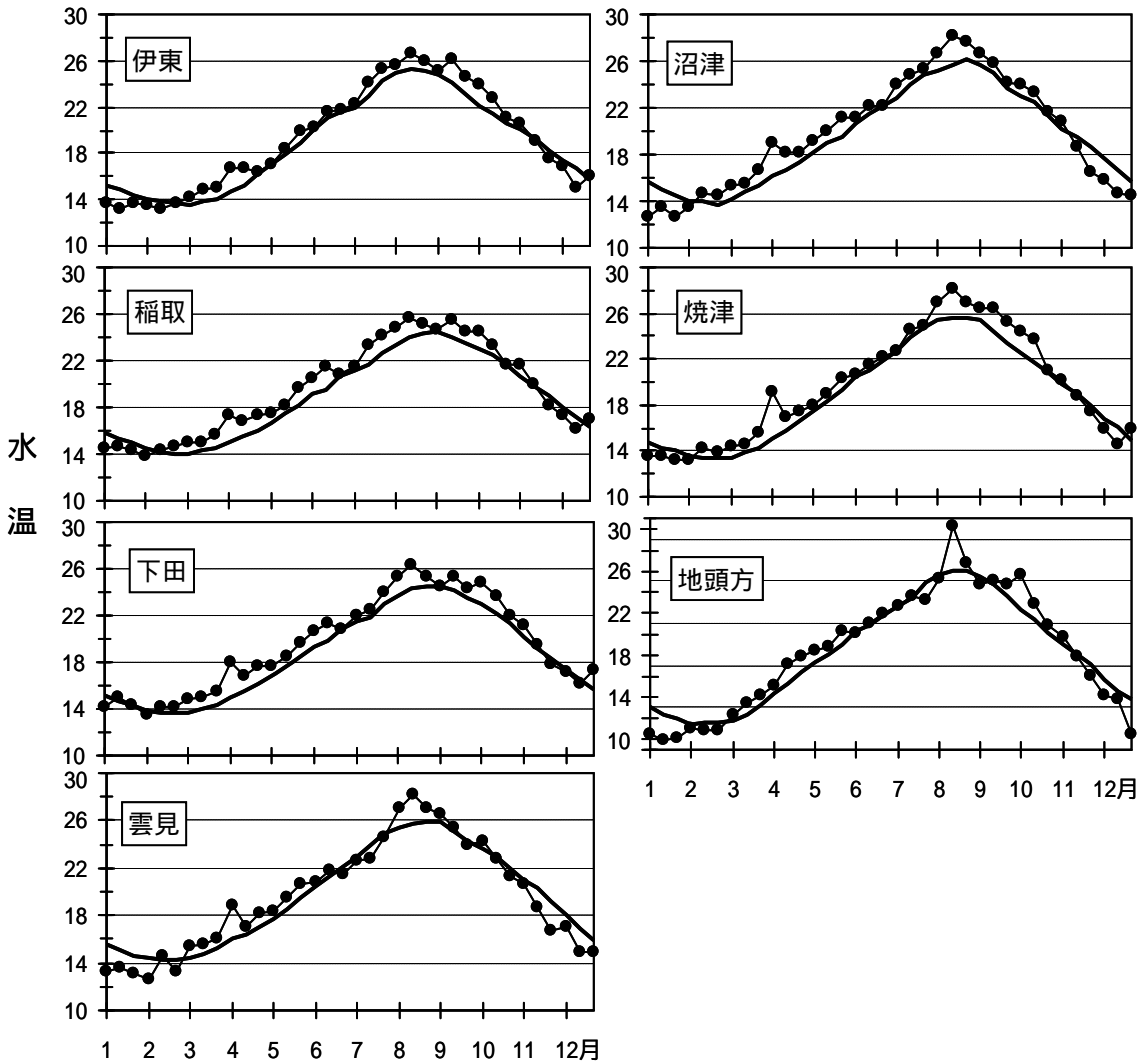


図3 平成25年1~12月の旬別沿岸水温の変化 (縦軸は水温、横軸は月を示す)

[ サバたもすくい棒受網 ]

1 たもすくい

平成25年の伊豆諸島海域におけるたもすくい操業は、1月6日にひょうたん瀬でゴマサバを対象に始まった。その後、2月5日に三本でマサバの初漁が見られ、中旬以降はマサバ主体で操業した。一夜一隻平均漁獲量は、マサバ10.8トン(12.5トン)で前年を下回り、ゴマサバ6.5トン(前年2.8トン)で前年を上回った。

2月中旬から5月にかけて、たもすくいはマサバ主体の操業が続き、3月上旬までは概ねひょうたん瀬に漁場が形成された。また、3月中旬から下旬には3本で操業した。4月上旬~下旬にはひょうたん瀬と利島で操業があった。この間、4月中旬に遠州灘沖にあった冷水域の東進により、黒潮が八丈島付近まで南下し、一時的に漁況が低調になったが、全体的には安定した漁況が続いた。5月には漁場は利島や大室出しへ移り、中旬までマサバの漁況は好調であったが、中旬以降、徐々にマサバに対するゴマサバの比率が増加した。6月には、マサバのまとまった漁獲は見られなくなり、ゴマサバ主体に銭洲、三宅島南東沖で操業をした。

マサバは尾叉長32~38cmの群が漁獲の主体となり、モードは35cmに見られた。また、26cmにモードを持つ30cm未満の小型魚も漁獲された(図4)。推定した年齢別漁獲尾数によれば、3歳魚(2010年級群、年齢は1月に加齢し、平成25年(2013年)時のもの、以下同じ)を主体に、卓越年級群である4歳魚(2009年級群)及び、2歳魚(2011年級群)が多く漁獲された。1歳魚(2011年級群)の割合は、過去10か年では3番目の水準であった。

ゴマサバは尾叉長26~37cmの群が漁獲の主体となり、モードは32cm、次いで27cmに見られた(図4)。推定した年齢別漁獲尾数によれば、比較的高い加入水準とされる3歳魚(2010年級群)と2歳魚(2011年級群)が漁獲の主体となった。また、卓越年級群とされる4歳魚(2009年級群)も多く漁獲された。

平成25年1~6月の千葉県・神奈川県・静岡県主要7港\*1におけるたもすくい水揚量は、マサバが2,325トンで前年(2,145トン)の101%、ゴマサバが1408トンで前年(471トン)の299%であった。マサバについては、期間中の1日1隻あたり水揚量が10.8トンで、1982年以降、2012年まで10トン未満の漁獲が続いていたが、2年連続で10トンを上回った。マサバ、ゴマサバとも水揚量が前年を上回った理由として、マサバではCPUEが前年を下回った(2013年:10.8トン/隻、2012年:12.5トン/隻)ものの、2月中旬から好漁が続いたためと考えられる。ゴマサバでは、CPUEが前年を上回った(2013年6.5トン/隻、2012年2.8トン/隻)ためと考えられる。

\*1 千倉・富浦(千葉県)、三崎・長井(神奈川県)、伊東・沼津・小川(静岡県)の7港

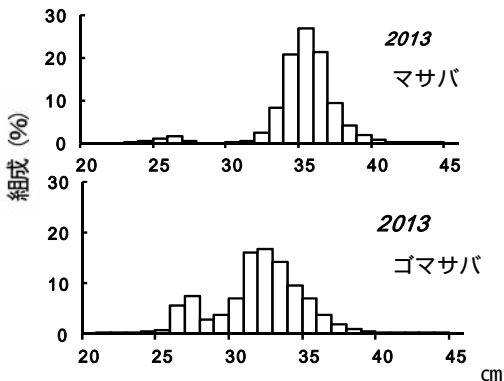


図4 平成25年1~6月のたもすくいによるマサバ尾叉長組成(上)とゴマサバ尾叉長組成(下)

## 2 棒受網

平成 25 年の伊豆諸島海域における棒受網操業は、1 月 17 日から始まった。静岡県棒受網船は、ほぼ年を通じて三本、三宅など三宅島周辺海域でゴマサバ主体の操業を行ったが、3 月中旬は神津島、5 月上旬と下旬は銭洲とひょうたん瀬、6 月上旬と下旬には銭洲、8 月中旬には中の瀬へも出漁した。また、1 月 31 日～3 月上旬まで、3 月下旬と 4 月下旬にはマサバ狙いのためたもすくい操業へ転換し、ひょうたん瀬、大室出し、利島等に出漁した。平成 25 年の静岡県主要 4 港<sup>\*2</sup>における棒受網（一部たもすくいも含み、以下同じ。）の 1 日 1 隻あたりゴマサバ水揚量は 18.1 トンで、前年（21.4 トン）の 85%、前々年（20.8 トン）の 87%であった。経月変化をみると、今年は 8 月の CPUE が大きく落ち込んだ。

漁獲されたゴマサバの 7～12 月（1～6 月はたもすくいとはほぼ同じ）の尾叉長範囲は 20～45cm であり、尾叉長組成は、7 月は 30cm モードの単峰、8～9 月は 21cm と 26cm にモードを持つ二峰、10～11 月は 22cm と 27 cm にモードを持つ 2 峰、12 月は 22cm と 28cm にモードを持つ 2 峰で経過した。年間の年齢別漁獲尾数によれば、0 歳魚（2013 年級群）が 9.6%、1 歳魚（2012 年級群）が 55.8%、2 歳魚（2011 年級群）が 20.2%、3 歳魚（2008 年級群）以上は 14.5%であり、1 歳魚（2012 年級群）が漁獲の主体となった。

平成 25 年の静岡県主要 4 港における棒受網の水揚量は、マサバが 1～5 月を中心に 1,031 トンで前年（1,156 トン）の 89%、ゴマサバが 6,990 トンで前年（8,139 トン）の 86%であった。マサバ水揚量が前年を下回った理由として、漁期を通じた CPUE は前年並であったものの（平成 25 年 5.6、前年 5.8）出漁数が僅かに下回ったためと考えられる（平成 25 年 183 回、前年 199 回）、ゴマサバ水揚量が前年を下回った理由として、1 月と 8 月に、主漁場である伊豆諸島でゴマサバの漁場が形成されず、前年と比較して CPUE が減少したことが挙げられる。

<sup>\*2</sup> 伊東、静浦、沼津、小川の 4 港

## 3 小川港におけるサバ類単価

平成 25 年の小川港における棒受網（一部たもすくいも含む）のサバ類月別単価は、マサバが 93～485 円/kg（1～5 月）、ゴマサバが 72～107 円/kg であった。水揚の主体となったゴマサバについては、年間を通じて 70 円/kg を上回りながら推移した。この理由として、年後半における水揚量の減少や、カツオ節加工の代替品としての需要、輸出品である缶詰相場等が影響したと考えられる。

表2 小川港(焼津市)における棒受網・たもすくいのサバ類月別単価 単位：円/kg

年	魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成19年 (2007年)	マサバ	129	236	185	156	124	140	184	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	50	53	51	71	72	57	74	60	58	63	80	95
平成20年 (2008年)	マサバ	-	315	489	315	173	-	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	98	96	92	83	78	90	72	61	51	48	56	58
平成21年 (2009年)	マサバ	-	486	405	169	108	-	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	53	75	56	56	56	56	54	50	38	36	36	37
平成22年 (2010年)	マサバ	35	249	260	126	231	253	204	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	71	61	79	63	63	66	57	42	36	39	37	39
平成23年 (2011年)	マサバ	-	216	225	169	280	450	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	48	54	58	62	62	58	56	51	54	54	53	48
平成24年 (2012年)	マサバ	271	138	263	172	103	-	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	52	46	51	51	46	52	62	59	59	56	58	59
平成25年 (2013年)	マサバ	485	182	93	132	93	-	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	107	80	72	78	75	82	82	82	75	76	83	92

## [サクラエビ船曳網]

春漁は 3 月 17 日夜～6 月 5 日夜（漁期は 3/15～6/5）にかけて操業が行われた。出漁日数は 25 日、漁獲量は 843 トンで、漁場は主に田子の浦～三保沖及び大井川～相良沖に形成された（前年の出漁日数は 22 日、漁獲量は 945 トン）。漁獲されたサクラエビは、平均体長 34.6mm の 0 歳エビ（前年は 36.3mm）と平均体長 40.6mm の 1 歳エビ（前年 42.1mm）で、当歳エビが主体であった。

秋漁は 11 月 5 日夜～12 月 23 日夜（漁期は 10/27～12/24）にかけて操業が行われた。出漁日数は 16 日、漁獲量は 441 トンで、漁場は主に焼津～相良沖に形成された（前年の出漁日数は 17 日、漁獲量は 389 トン）。漁獲されたサクラエビは、平均体長 30.6mm の 0 歳エビ（前年は 31.0mm）と平均体長 38.4mm の 1 歳エビ（前年は 39.5mm）であった。

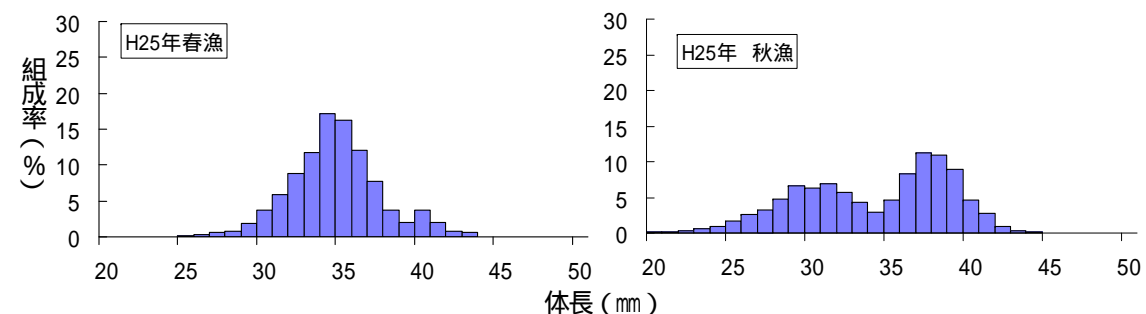


図5 平成 25 年春・秋漁のサクラエビ体長組成

## [竿釣近海カツオ]

### ・水揚量と魚価

平成 25 年の静岡県主要 5 港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海・沿岸竿釣り船の水揚量は、1,707 トンで平成 24 年の 1,373 トンを上回り、過去 5 年平均（1,809 トン）の 94% であった。魚価は 327 円/kg で平成 24 年の 467 円/kg を下回った。

### ・漁況（漁場形成と魚体）

近海竿釣り船の QRY、御前崎港での市場調査による小笠原と伊豆諸島周辺の漁況はおおむね下記のとおり推移した。

- 1 月 小笠原諸島周辺で小（尾叉長 45cm モード）・中カツオを主体に漁獲した。
- 2 月 21°～26° N、139°～142° E の中南海域から小笠原諸島周辺で特大・特特大（尾叉長 71cm モード）カツオを主体に中・大（尾叉長 56cm モード）と小・極小（尾叉長 43cm モード）カツオを漁獲した。
- 3 月 中南海域から小笠原諸島周辺で特大・特特大（尾叉長 71cm モード）中・大（尾叉長 57cm モード）カツオ主体に漁獲した。沿岸竿釣り船は下旬から静岡県沖の黒潮流域で操業し、小（尾叉長 45cm モード）カツオを主体に漁獲した。
- 4 月 33°～34° N、136°～141° E の黒潮流域で小（尾叉長 44cm モード）大・中（尾叉長 58cm モード）カツオを漁獲した。
- 5 月 31°～34° N、137°～139° E で小・極小（尾叉長 44cm モード）中・大（尾叉長 61cm モード）カツオを漁獲した。

- 6月 33° 20' ~ 34° 30' N, 138° 50' ~ 140° 10' E で小(尾叉長 46cm モード)カツオを主体に漁獲した。
- 7月 34° ~ 35° N, 139° ~ 140° E の相模湾から三宅島周辺にかけて小(尾叉長 48cm モード)中カツオを漁獲した。
- 8月 32° 30' ~ 34° 50' N, 138° 20' ~ 139° 40' E の相模湾から青ヶ島にかけて、小・中(尾叉長 49cm モード)カツオを主体に漁獲した。
- 9月 31° 50' ~ 34° 30' N, 139° ~ 140° E 付近の大室出しからハコースにかけて、中・小(尾叉長 50cm モード) 極小・チン(尾叉長 40cm モード)カツオを漁獲した。
- 10月 31° 00' ~ 34° 30' N, 138° 20' ~ 139° 50' E 付近の大室出しから松生場で極小(尾叉長 39cm モード) 中・小(尾叉長 50cm モード)カツオを水揚げした。
- 11月 31° 50' ~ 33° 40' N, 139° 50' ~ 140° 20' E 付近の伊豆諸島周辺で極小(尾叉長 40cm モード) 中・小(尾叉長 51cm モード)カツオを漁獲した。
- 12月 31° N, 139° E 付近で極小(尾叉長 41cm モード)カツオを主体に漁獲した。

表3 平成25年近海・沿岸釣り船のカツオ水揚量等(県内主要5港)

年月	水揚量(トン)	水揚隻数	水揚/隻(トン)	平均単価(円/kg)	主漁場と魚体( )内は体長モード、単位はcm
25年 1月	14	2	7.0	297	小笠原諸島周辺(45)
2月	212	10	21.2	211	中南・小笠原諸島周辺(43、56、71)
3月	267	20	13.4	319	小笠原・中南・遠州灘(45、57、71)
4月	215	55	3.9	432	伊豆諸島周辺・遠州灘(44、58)
5月	228	46	5.0	299	伊豆諸島周辺(44、61)
6月	209	34	6.1	289	伊豆諸島周辺(46)
7月	285	66	4.3	267	伊豆諸島周辺(48)
8月	125	46	2.7	488	伊豆諸島周辺(49)
9月	65	23	2.8	467	伊豆諸島周辺(40、50)
10月	39	19	2.1	448	伊豆諸島周辺(39、50)
11月	46	22	2.1	362	伊豆諸島周辺(40、51)
12月	2	3	0.7	679	伊豆諸島周辺(41)
25年 計	1,707	346	4.9	327	
24年 計	1,373	353	3.9	467	
5か年平均	1,809	402	4.5	429	平成20~24年の平均

[まき網]

1 マイワシ

本年の静浦漁港における水揚げは無かった(前年:0.9トン、平年:22.5トン)。沼津港における総水揚げ量は2,655.2トンで、前年(1,032.5トン)の257.2%、平年(1,815.2トン)の146.3%と大幅に増加した。2~5月、8~9月、および、11月に比較的多量の水揚げがあり、総水揚げ量の95%を占めた。6月上旬は被鱗体長17~21cm前後の銘柄「中羽」~「大羽」が主体であった。

小川港における総水揚げ量は1,464.8トンで、前年(423.5トン)の645.9%、平年(851.9トン)と大幅に増加した。2月、4月、8~9月、および、11月に比較的多量の水揚げがあり、この期間で総水揚げ量の91%を占めた。4月上旬は被鱗体長20cm前後の銘柄「大羽」が主体、4月中旬~下旬は被鱗体長15~18cm前後の銘柄「中羽」が主体であった。8月は被鱗体長19cm前後の銘柄「中羽」が主体、11月は被鱗体長18cm前後の銘柄「中羽」が主体であった。

伊東港における総水揚げ量は28.6トンで、前年(75.0トン)の38.1%、平年(736.9トン)の3.9%と低調であった。水揚げのピークは6月で22.4トンの水揚げがあり、この月で総水揚げ量の78%を占めた。

2 カタクチイワシ

本年の静浦漁港における水揚げは無かった(前年:419.0トン、平年:354.8トン)。注)平年:過去5か年(2008~2012)平均

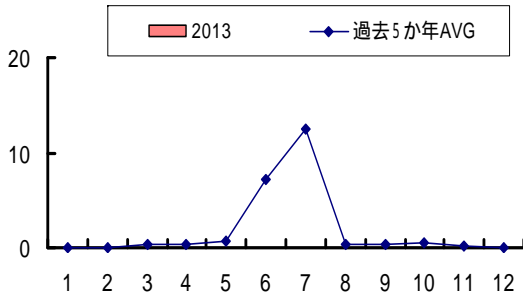


図6 静浦漁港マイワシ月別水揚げ量の推移

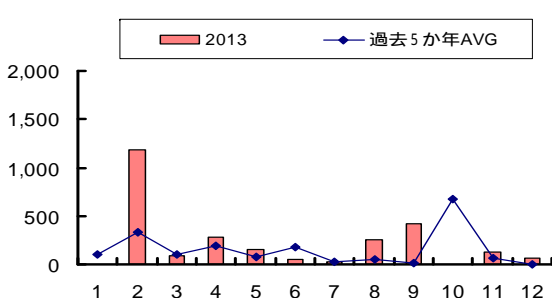


図7 沼津港マイワシ月別水揚げ量の推移

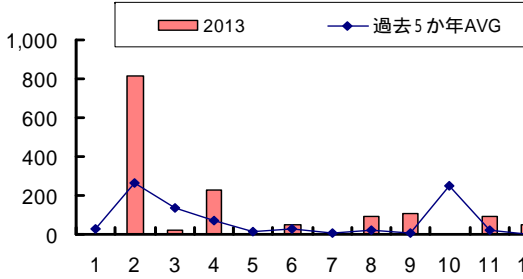


図8 小川港マイワシ月別水揚げ量の推移

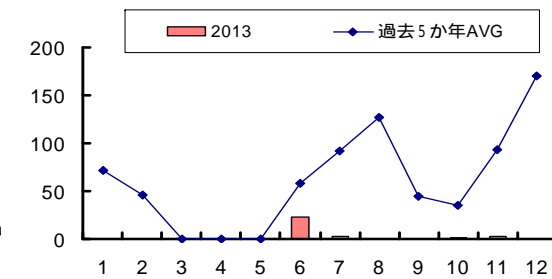


図9 伊東港マイワシ月別水揚げ量の推移

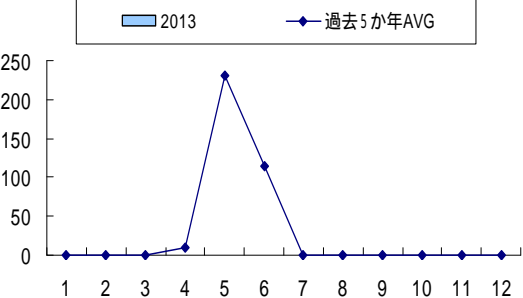


図10 静浦漁港カタクチ月別水揚げ量の推移

(注)図6~10の縦軸は水揚げ量(トン)、横軸は水揚げ月



**【シラス船曳網】**

平成 25 年シラス漁は 3 月 21 日から始まった。平成 25 年 3 月～平成 26 年 1 月の主要 6 港（静岡、吉田、御前崎、遠州、舞阪、新居）における総水揚量は 6,055 トンで、前年（8,532 トン）の 71%、平年（7,402 トン）の 82%と、前年、平年をともに下回った。総水揚金額は 3,020,763 千円で、前年（5,395,499 千円）の 56%、平年（4,300,207 千円）の 70%と、前年、平年ともに下回った。平均単価は 499 円/kg と、前年（632 円/kg）の 79%、平年（582 円/kg）の 86%だった。

1 日 1 か統当りの水揚量の推移をみると、3 月はほぼ前年並みで平年を下回り、4～5 月は前年、平年ともに大幅に上回った。6 月～11 月は前年、平年ともに下回り低調に推移し、特に、7 月は前年、平年ともに大幅に下回り、極めて低調であった。12 月はほぼ前年まで回復し、平年は上回った。駿河湾と遠州灘を比較すると、7 月と 10 月は駿河湾の方が高く、それ以外の月は遠州灘の方が高かった。

月別にみると、3 月は 210kg（駿河湾 121kg、遠州灘 295kg）と平年（258kg）の 82%、4 月は 653kg（駿河湾 506kg、遠州灘 716kg）で平年（359kg）の 182%、5 月は 924kg（駿河湾 822kg、遠州灘 967kg）で平年（500kg）の 185%と 4～5 月は好調であった。6 月以降は一転して低調となり、6 月は 191kg（駿河湾 102kg、遠州灘 245kg）で平年（506kg）の 38%、7 月は 105kg（駿河湾 123kg、遠州灘 87kg）で平年（510kg）の 21%、8 月は 180kg（駿河湾 136kg、遠州灘 203kg）で平年（491kg）の 37%、9 月は 383kg（駿河湾 365kg、遠州灘 396kg）で平年（423kg）の 91%、10 月は 322kg（駿河湾 326kg、遠州灘 320kg）で平年（378kg）の 85%、11 月は 206kg（駿河湾 148kg、遠州灘 230kg）で平年（245kg）の 84%であった。12 月になると 260kg（駿河湾 198kg、遠州灘 303kg）で平年（175kg）の 149%と回復し、主要 6 港の統計を取り始めた 1985 年（昭和 60 年）以来、2010 年（平成 22 年）に次ぐ高い値であった。

月別水揚量の推移をみると、1 日 1 か統当りの水揚量と同様、3 月はほぼ前年同期並みで平年を大幅に下回り、4 月～5 月は前年、平年ともに大幅に上回った。6 月～10 月は前年、平年ともに下回り低調に推移し、11 月は前年を大幅に下回ったが平年は上回った。特に、7 月は前年、平年ともに大幅に下回り、極めて低調であった。12 月は前年を上回り、平年は大幅に上回った。駿河湾と遠州灘を比較すると、7 月は駿河湾の方が高く、それ以外の月は遠州灘の方が高かった。

月別にみると、3 月は 62 トンで平年（125 トン）の 50%、4 月は 1,230 トンと平年同期（594 トン）の 207%、5 月は 2,149 トンで平年（1,111 トン）の 193%と 4 月～5 月は好調であった。6 月以降は一転して低調となり、6 月は 202 トンで平年（1,061 トン）の 19%、7 月は 143 トンで平年（1,278 トン）の 11%、8 月は 318 トンで平年（958 トン）の 33%、9 月は 684 トンで平年（877 トン）の 78%、10 月は 542 トンで平年（822 トン）の 66%であった。11 月は 430 トンで平年（387 トン）の 111%、12 月は 260 トンで平年（142 トン）の 183%と 11 月以降は平年を大幅に上回った。なお、12 月は、主要 6 港の統計を取り始めた 1985 年（昭和 60 年）以来最高値であった前年 12 月（233 トン）をさらに上回った。

平均単価の推移をみると、3～6 月は平年を下回り（平年比 30～90%）、特に 5 月は平年比 37%であった。その一方、7 月以降は 10 月を除き平年を上回った（平年同期比 110～170%）、3～6 月に単価が低迷した要因としては解禁日から 5 月下旬までまとまった水揚が続いたことが、7 月以降に単価が上昇した要因としては 6 月以降にまとまった水揚量が無かったことが考えられる。

今漁期は、4 月中旬以降に断続的に暖水波及があり好漁が続いたが、6 月上旬以降は駿河湾、遠州灘ともに低調に推移した。8 月下旬～10 月中旬、12 月に好転した時期もあったが一時的なものであった。これは、6 月以降は黒潮が C 型基調で推移したことに加え、本県沿岸への黒潮系暖水の波及や黒潮内側反流が発達する機会が少なかったことが影響していると考えられる。

注) 平年：過去 5 年（2008～2012）平均

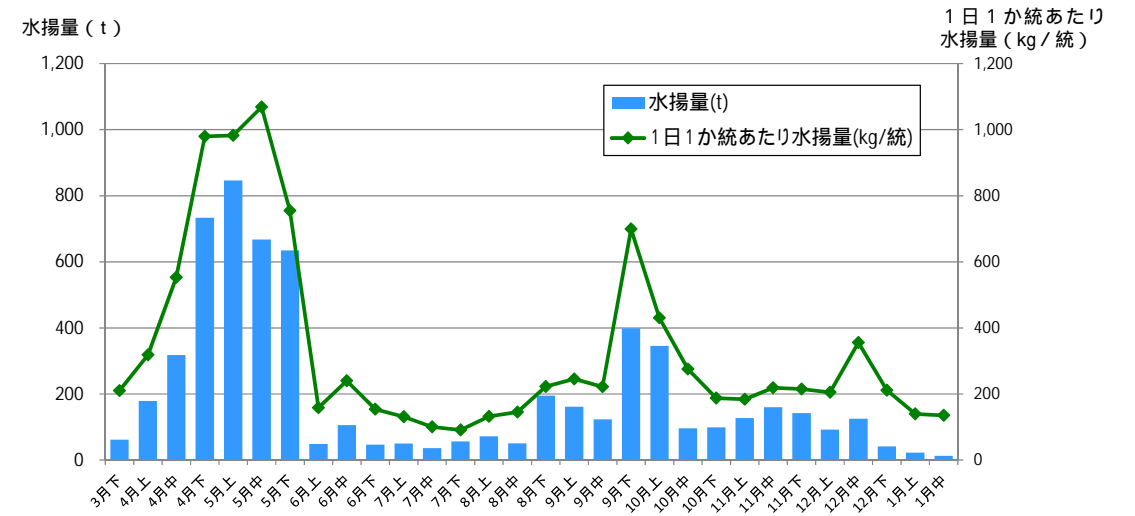


図 11 平成 25 年主要 6 港旬別シラス水揚量と 1 日 1 か統当たり水揚量の推移

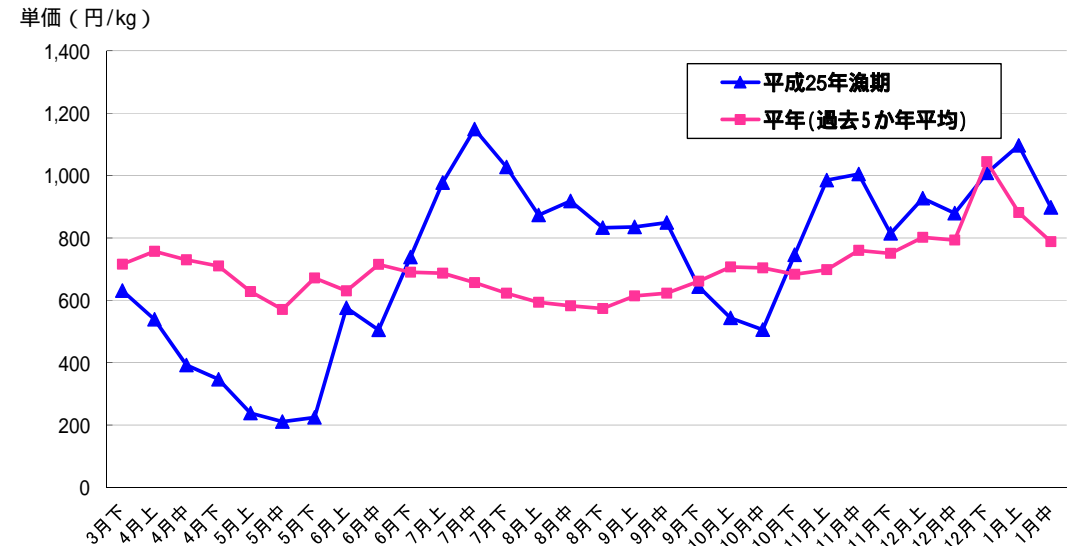


図 12 平成 25 年主要 6 港旬別シラス単価の推移

**[定置網]**

平成 25 年の伊豆半島東岸大型定置網 7 か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の漁獲量は 4,510 トンで、前年漁獲量 6,136 トンの 0.7 倍、平年漁獲量（昭和 57 年～平成 24 年平均）4,001 トンの 1.1 倍であった。月別に漁獲量をみると、1、5 月に平年を大きく上回る漁獲がみられた（図 13）。

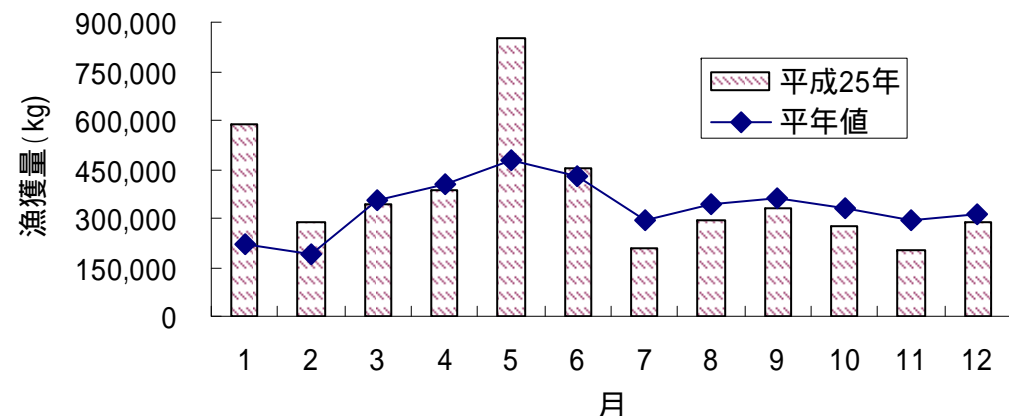


図 13 月別漁獲量の推移

また、漁場別の漁獲量では北川、谷津漁場で前年を上回り、北川、古網、川奈漁場の順に多く漁獲された（図 14）。

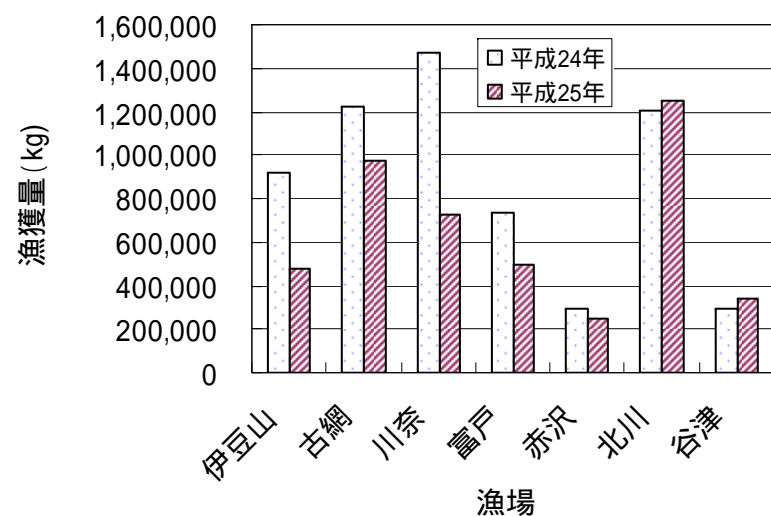


図 14 漁場別漁獲量

魚種別の漁獲量ではスルメイカ、シイラ、ヤマトカマス、イサキが前年、平年を大きく上回る漁獲量であった。ブリはワラサ銘柄を中心に漁獲され、前年より減少したが、平年を大きく上回った。

表 3 多獲された魚種の漁獲量

魚種	漁獲量 (トン)	前年比	平年比
サバ類	874.8	0.4	0.9
スルメイカ	754.7	2.6	4.2
マルソウダ	561.1	0.4	2.1
カタクチイワシ	555.3	1.2	1.5
ブリ	521.7	0.6	2.7
マアジ	192.3	1.1	0.3
シイラ	187.7	3.7	3.5
ヤマトカマス	167.7	3.0	2.6
イサキ	104.0	2.0	2.0
マイワシ	85.5	0.7	0.2

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

